

熊本南病院

基本理念

＜熊本南病院は、地域に密着した優しく思いやりのある医療をめざします。＞

【病院紹介】

国立病院等再編成計画により、旧国立療養所熊本南病院と旧国立療養所三角病院が統合し、平成 15 年 3 月に国立療養所熊本南病院として開設され、その後国立病院機構として現在に至っています。当院は熊本市の南約 25 km にあり、熊本市と八代市のほぼ中央に位置する小高い丘陵地にあります。病院の周囲は鳥獣保護区に指定され自然豊かな環境にあり、診療圏は宇城市を中心に、熊本県南部及び宮崎県、鹿児島県の一部に及んでいます。

当院は結核の専門医療施設でもありましたが、現在は新型コロナウイルス感染患者受入れ施設として宇城地区の中心的な施設となっています。病床数は 172 床、このうち 60 床が神経難病病棟です。熊本県から神経難病疾患における難病診療分野別拠点病院の指定を受け、熊本県南でのパーキンソン病や ALS、成人筋ジストロフィーなどの神経難病の拠点病院としての役割を担っています。

現在の病院長は血液内科医師であり、2013 年より多発性骨髄腫や骨髄異形成症候群など、進行が緩やかな血液疾患の診療を行っています。肺炎・慢性閉塞性肺疾患（COPD）・NTM・肺がんなどの診断治療と併せて「呼吸器センター」として診療活動も行っています。外来においてアリケイス吸入液導入の説明や抗がん剤に関する説明を薬剤師が行い、かかりつけ薬局との連携にも注力しています。

【施設概要】 2023.7.1（データは 2022 年度実績）

1. 所在地 〒869-0593 熊本県宇城市松橋町豊福 2338 番地
2. 特徴 熊本県における結核の最終拠点病院、熊本県がん診療連携拠点病院、難病診療分野別拠点病院（神経難病）
3. 診療科 18 診療科
内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、糖尿病内科、代謝・内分泌内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、リウマチ科、リハビリテーション科、放射線科、整形外科、感染症内科、麻酔科
病床数 172 床（結核 22 床を含む）； 4 病棟
4. 薬剤師数（定数：4 名） 薬剤科長 1 名、副薬剤科長 1 名、主任 1 名、薬剤師 1 名、助手 1 名
5. 主な業務
(ア) 調剤 入院処方箋 17,009 枚/年
外来(院外)処方箋 18,958 枚/年、外来院内処方箋 18,958 枚/年
(院外処方率 94.1%) (院外は一般名記載処方箋導入)
(イ) 注射 入院注射処方箋 20,704 枚/年、外来注射処方箋 2,484 枚/年
(ウ) 薬剤管理指導件数 2,593 件/年（216 件/月）
(エ) 無菌製剤処理料 I 428 件/年（うち閉鎖式接続器具使用 49 件/年）
(オ) 外来化学療法加算 抗がん剤 87 件/年、抗リウマチ薬 91 件/年
(カ) 病棟薬剤業務 未実施
(キ) チーム活動 ICT（感染対策）、AST（抗菌薬適正使用支援）緩和、褥瘡、医療安全 NST（栄養サポートチーム）

6. 特徴的な業務 退院時薬剤管理の徹底、出張健康教室講師
緩和病棟（包括病棟）における麻薬・薬剤説明
アライエス吸入液導入目的の薬剤師外来
院外処方箋における疑義照会簡素化プロトコル、調剤薬局との連携
7. 令和5年度の取り組み 退院時指導、外来化学療法 of 安全管理および調剤薬局との連携の充実
医療安全の推進

8. システム・設備

項目	有・無
電子カルテ	○
自動錠剤分包機	○
散剤監査システム	○
水剤監査システム	×
散剤分包機	○
安全キャビネット	○
クリーンベンチ	○

9. 目標

【病院目標】

- 1.地域に密着した優しく思いやりのある医療を行う
- 2.地域における医療の質と安全を高める
- 3.国立病院機構の病院としての役割を果たす

【薬剤科目標】

- 1.患者サービスの推進
- 2.医療安全の推進
- 3.医薬品の適正管理